

第44回 横浜みどりアップ計画市民推進会議 会議録	
日 時	令和7年8月4日（月） 10時00分から12時00分まで
開 催 場 所	市庁舎18階 共用会議室みなと1・2・3
出 席 者	池島委員（web）、池邊座長、岩本委員、内海副座長、大竹委員、金井委員、河原委員、菊池委員、北原委員、小金井委員、酒井委員、竹内委員、飛田委員、野路委員、樋上委員（五十音順）
欠 席 者	石原委員、望月委員
開 催 形 態	公開（傍聴1人）
議 題	<p>1 横浜みどりアップ計画2024年度の事業実績について</p> <p>2 市民推進会議2024年度報告書（案）について</p>
議 事	<p>（事務局） 定刻となりましたので、会議を始めます。</p> <p>私は、本日の進行を務めます、みどり環境局戦略企画課担当係長の宮崎です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>委員の皆さまにはお忙しい中、お集まりくださいまして誠にありがとうございます。</p> <p>それでは、ただ今より、「第44回横浜みどりアップ計画市民推進会議」を開催します。まず、本日の会議についてご報告いたします。</p> <p>本会議は、横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱第5条第2項の規定により、委員定数17名のうち半数以上の出席をもって成立します。本日16名の出席をいただいているので、会議が成立していることをご報告します。</p> <p>また、本会議は同要綱第1条に基づき公開となっており、会議室内に傍聴席および記者席を設けています。会議録についても公開予定のため、委員の皆さまには事前にご了承願います。なお、会議録には発言者氏名が記載されますので、併せてご承知ください。さらに、会議中に写真撮影を行い、ホームページおよび広報誌等へ掲載することも併せてご了承願います。</p> <p>次に、事前に送付した資料の確認をお願いいたします。まず、お手元に、A4判、1枚の「次第」はございますか。次に、ホチキス止めの資料1「市民推進会議2024年度報告書（案）」と、参考資料1「横浜みどりアップ計画令和6年度進捗状況」です。</p> <p>なお、参考資料1に掲載した実績値は、現時点では未公開の情報であるため、この資料は会議終了後に回収いたします。ご協力ををお願いいたします。</p> <p>また、本日使用するスライドやみどりアップ計画冊子等をつづった緑色のフラットファイルも机上にありますが、この資料も持ち帰りいただけない資料ですので、会議終了後は机上に置いたままでお願ひします。以上、資料に関する確認でしたが、資料の不足等はありますか。</p> <p>それでは、議題に入る前に事務局側の出席者を紹介いたします。</p> <p>（事務局参加者紹介）</p>

	<p>(事務局) それでは、担当理事の藤田よりごあいさつ申し上げます。</p> <p>(事務局) 皆さま、おはようございます。</p> <p>(一同) おはようございます。</p> <p>(事務局) 本日は大変な酷暑の中、また、ご多忙の折に「横浜みどりアップ計画市民推進会議」にご出席を賜り、誠にありがとうございます。2024年から始まった「第4期横浜みどりアップ計画」は2年目を迎え、市民、そして、土地所有者の皆さまのご理解とご協力の下、着実に事業を進めているところです。</p> <p>本年5月から6月にかけて開催された施策別専門部会では、取組の柱ごとに委員の皆さまから活発なご議論をいただき、さまざまなご意見を伺うことができました。皆さまから頂戴したご意見を真摯に受け止め、今後の取組に反映して、より良い計画となるよう検討を重ねてまいります。</p> <p>さて、GREEN×EXPO 2027の開催まであと592日となりました。緑や花により街のにぎわいを創出する「ガーデンネックレス横浜」の取組など、緑あふれる都市で暮らすことの豊かさを市民の皆さまに実感してもらえるように、取組を効果的に進めてまいります。</p> <p>本日は、市民推進会議の報告書の最終案、そして、横浜みどりアップ計画の2024年度3月末までの進捗状況についてご説明いたします。各委員の皆さまには、専門分野や部会の枠を越えて、忌憚のないご意見を頂戴したいと存じます。簡単ですが、以上をもちまして、私からのごあいさつといたします。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>(事務局) ありがとうございました。事務局からは以上です。</p> <p>この後の進行は池邊座長にお願いしたいと思います。池邊座長、よろしくお願ひします。</p> <p>(池邊座長) あらためて、おはようございます。皆さん、本当に忙しい中、そして、大変な酷暑の中、また、市役所の方におかれましては市長選の翌日ということで非常にお疲れの中、この市民推進会議を開催させていただけたことに感謝いたします。</p> <p>先ほどお話のありました部会ですが、今回は新体制になって初めて開催される部会でした。送付していただいた報告書にある各委員や部会長のご意見を拝見すると、各部会で積極的な議論がなされたようで、私も大変うれしく思いますし、また、それらのご意見を反映させてほしいと思っています。</p> <p>私の「あいさつ」部分はまだ「仮」となっていますが、本日、皆さまのご意見を拝聴した上で、最終版としたいと考えています。</p> <p>先ほど、藤田理事からお話がありましたように、「部会の枠を超えて」ということで、積極的なご発言をお願いします。報告書に反映される最後の機会でもありますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>早速、次第に沿って進めたいと思います。次第1「横浜みどり</p>
--	--

りアップ計画 2024 年度の事業実績について」、事務局からご報告をお願いいたします。

(事務局説明)

(池邊座長) ご説明、ありがとうございました。

それでは、ご説明のあった事業実績について、委員の皆さんからご質問、ご意見お伺いします。ご自分の所属部会以外の内容も含めて、積極的にご発言くださいますと幸いです。どなたからでも結構です。金井委員、お願いします。

(金井委員) 私自身の理解不足かもしれません、その際はご指摘ください。

今回の選挙では、「みどり税廃止」を訴えた候補者が 2 人いました。みどり税の認知度が高ければ、「ここには触れないほうがよい」と思うはずですが、あえて踏み込んできたということは、やはり認知度が不十分なのではないかと感じました。市役所の皆さんも大変熱心に取り組まれていることは私も存じていますが、「一生懸命やっている割には認知度が上がらない」といった委員からの意見もあるため、もう少し工夫の余地があるのではないかと思います。

その一つが、認知度調査の方法です。認知度が上がらないということで、「どのような調査をしているのか」と尋ねても、曖昧な回答しか返ってこないのです。年代別に見ると、若い人の認知度は高くても、固定電話しか使用しない高齢者に電話で調査をしても、「『みどりアップ』なんてカタカナのことには興味ないよ」と言われてしまうかもしれません。従って、認知度調査の方法を本格的に見直すべきだと考えます。

また、広報・見える化部会で伺ったお話からすると、あと一押しで認知度が上がりそうな事例が数多くあるように感じました。ここではその詳細は申し上げませんが、三つの柱に加えて、柱ごとに認知度向上ための具体的な方法を明記し、一年後に成果を検証する仕組みが必要だと思います。

横浜のみどりアップ計画は、日本でも他に例のない素晴らしい取組であり、もっと世界に誇ってもいい取組だと考えます。それなのに、今一つ、熱量が伝わってこないというところが正直な印象です。失礼な言い方かもしれません、改善に向けた具体策を立てていくことが必要だと思います。

(池邊座長) ありがとうございます。私からも少し補足させてください。今のご意見は大変大事なことだと思います。アンケートをネットで実施すれば若い人に偏り、郵送では「みどりアップって何?」といった反応もあります。すなわち、みどり税とみどりアップ計画が結び付いていないことが大きな問題です。私たちは、みどり税とみどりアップ計画の関係をよく分かっていますが、一般市民の方にすれば、「みどりアップ」と言ってもよく分からぬということが一つ目の課題だと思います。

また、金井委員がおっしゃったように、横浜市の取組は全国的にも非常に優れたものですが、全国的なアピールが不十分だと思われます。私が他の地域でみどりアップ計画の話をすると

	<p>と、10年以上の実績にもかかわらず、「えっ、横浜ってそんなことをやっていたの」と驚かれることがいまだに多くあります。そこで、横浜市以外にも周知が行われ、「横浜ってこんなことをやってるんだ」と他地域の方から言われるようになれば、市民の方が誇りを持ってアンケートにも答えてくださるのではないかと思います。</p> <p>過去2年間、私は東京都の外務部の仕事をしていたのですが、そこでは海外に向け、「東京都ではこんなことをやっている」という発信を積極的に行い、海外からの反応を得る取組をしています。そこで、GREEN×EXPO 2027のときには、花だけの「園芸博」にとどまらないようなことをしてもらいたいと考えています。</p> <p>地域で花づくりを行っていることに加え、林地や農地があり、農業も盛んであり、街路樹の整備にさまざまな工夫がされているなど、横浜市の多様な緑の取組を紹介できる機会もあります。このような取組を行う場合、海外では寄付を募る場合が多いのですが、横浜市のように税金を使った取組は世界的にも珍しい事例だと思われます。</p> <p>パンフレット制作には費用が掛かり過ぎるため、ホームページ等で、「横浜市はこれまで長く、こんな施策を実施してきた」という情報を発信し、海外の方に里山などにも足を運んでもらい、これまでのみどりアップ計画による実績を見てもらえるような工夫が必要だと思います。これが二つ目の課題だと思います。</p> <p>事務局から何か回答はありますか。</p> <p>(事務局) ありがとうございました。</p> <p>認知度調査については、現在、住民基本台帳から無作為抽出した5000名の市民に郵送する「横浜市の緑の取組に関するアンケート調査」の一部として回答をいただいている。ご指摘のとおり、今の時代から見た郵送調査の限界もあるとも思いますので、より良い調査方法を検討してまいります。</p> <p>「あと一押し」という点については、私たちも日々、感じているところです。どうすればより伝わりやすくなるのかについて、委員の皆さまのご意見を参考にしながら取り組んでいきたいと思います。</p> <p>また、池邊座長から、「対外的にももっと発信を」というご意見を頂戴しました。昨年、生物多様性に関する国際機関の方に、みどり税やみどりアップ計画の取組を紹介する機会があり、非常に高い評価をいただきました。今後もこうした機会を捉えて対外的な発信をしていきたいと思います。</p> <p>GREEN×EXPO 2027の中でこれまでの取組をどう表現するか、みどりアップ計画における市民の皆さまの活動をどのように紹介するかなど、具体化に向けた検討を進めているところです。</p> <p>(池邊座長) ありがとうございました。 それでは、菊池委員、お願いします。</p> <p>(菊池委員) ご説明、ありがとうございました。大変多くの取組があるこ</p>
--	---

とに驚きました。私は町内会の代表として参加していますので、地域の視点からお話しします。

地域では、みどりアップ計画があるかどうかはあまり関係がなく、「緑が増えればいい」というのが基本的な考え方です。地域ではまず、町の方針を作り、駅前や公園などの特性を踏まえて、何が不足しているのか、将来に向けて何を補うべきかを考えます。その中で、「土地を増やしたい」という地域もあれば、「今まで十分」と考える地域もあります。

つまり、地域はみどりアップ計画があるから動くのではなく、住民のニーズに応える形で動いているのです。そのため、役所だけでなく、さまざまな団体が住民のニーズにどう対応できるかを知りたいのです。こうしたマッチングがないと、例えば「貸し農園がほしい」という声が多く出ても、実際にどうすればいいのかが分からぬのです。

都心部には貸し農園が少なく、戸塚のような郊外には多いようですが、そのような情報が私たちに届かないのです。住民のニーズに応える施策を出さないと、地域にとっては臨場感がありません。

従って、毎年度の終わりに、「その区で何をやったか」という長いリストをもらいますが、それを見て住民が思うのは、「自分のエリアでは何もやっていないな」ということです。横浜市の18区に対して、「この区で何ができる、なにが足りないのか」という一覧を見たいのです。足りないことが悪いということではなく、「なぜ、他区ではできたのか」という事例を知ることによって、自分たちも動けるようになるからです。こうした情報がないと、お金の問題ではないとわかってはいても、関心が超過課税に偏ってしまいます。

例えば、貸し農園がどこにあるのかが分かっても、「どうすればこのようなことができるのか」が分かりません。区役所が発信してくれるのかと考えますが、そんなことはありません。そういう道筋の案内が、住民にとって最も価値があるのです。

この実績報告を見ると、「何パーセント達成しました」ということと、幾つかの事例は分かりますが、戸塚区の住民が見るのは、「戸塚区にはないな」というところです。そのため、「何をどのくらいやった」ということではなく、「住民のニーズに対して、こう対応しました。その代表事例がこれです」というふうに変えないといけないと思います。

また、野菜作りは特別支援学級の小学生にとって非常に意味があります。今、横浜市では発達障害や不登校の子どもたちが増えていますが、彼らが農作業を通じて社会になじみ、われわれがその様子を褒めることによって彼らは自信を持てるようになります。みどりアップ計画がそういったところにも寄与していることを、文言として盛り込んでもよいと思います。

緑が多いことの価値は理解されていますが、それ以外の社会的意義についても、もっとアピールしたほうがいいと思います。池邊座長のおっしゃった、「横浜市ではすごいことをやっている」というアピールは地域にとってあまり意味がなく、地域にとって重要なのは、「自分たちの悩みを解決してくれる所を教えてもらう」ことなのです。

この報告書に入れなくても、別冊でも構いません。こうした情報を得られる資料があると、大変ありがたいです。

(池邊座長) ありがとうございました。とても重要なご指摘です。例えば、「どこに相談すれば支援が受けられるのか」がチャットで分かるなど、ワンストップの仕組みは非常に有効だと思います。

また、今「農福連携」ということも言われていますが、障害のある方や高齢者が市民農園に行くことで、認知症の進行を抑制し、健康な高齢者が増えれば、医療や介護費用の削減につながりますし、農作業を通じて会話や運動の機会が増えることは非常に意義のあることです。ぜひ、今後の取組に反映してほしいと思います。

それでは、事務局から回答をお願いします。

(事務局) ありがとうございます。菊池委員から、「行政目線ではなく、市民目線、地域目線で進めるべきだ」という非常に重要なご指摘を頂戴したと受け止めていました。

私たちは日々、目標数値や関係者・地権者との調整、コンプライアンスなど、行政目線で業務を進めがちですが、最終的には 377 万人の横浜市民のために農政分野の仕事をしているという原点に立ち返る必要があります。

従って、農業分野の施策も、農家だけではなく、市民満足度の向上を目指すべであり、そのためには、どのような視点に立つべきなのかという点を、菊池委員からご指摘いただきました。

横浜市には 18 区があり、それぞれの区に多様な町があります。そして、農的環境も都心部と郊外とでは異なります。今後は地域目線をより重視して進めるために、これまで以上に区役所とも連携していきたいと考えています。

(池邊座長) ありがとうございました。

それでは、飛田委員、お願いします。

(飛田委員) とても興味深いお話をありがとうございました。まず、アピールの仕方について、私は先日、日産スタジアムでリヴァプールと横浜マリノスの試合を観戦しました。そのとき、スタジアムには「みどりアップ計画」のバナーが掲示されていましたが、観客が着用したリヴァプールの赤いユニフォームに埋もれてしまい、全く目立っていませんでした。あの試合は国際放送されていて、リヴァプールはもちろん、マレーシアなどの東南アジア全域でも中継されていました。せっかくの機会だったのに、何のアピールにもなっていなかったのは非常にもったいないと感じました。もう少し目立つ形でバナーを掲示できれば、何年かに一度しかない貴重な機会を生かせたのではないかと思います。

次に、菊地委員からご指摘のあった「社会情勢への貢献」についてのアピールがないことについては、王立園芸協会が 30 年近く取り組んできたテーマです。私は、市の図書館にそれにに関する雑誌のバッグナンバーを寄贈しましたので、ご参考までにご覧いただきたいと思います。

1990年代末頃から、街の美化が福祉の向上につながるという事例が多数、報告されています。ガーデニングを通じて、障害のある子どもが明るくなったり、麻薬使用など、問題行動のある青少年に変化が見られたり、認知症のお年寄りが元気になったりと、さまざまな成果が出ています。また、イギリスでは移民問題が非常に大きくなっていますが、ジャマイカ出身の移民と韓国出身の移民とが一緒にガーデニングをすることによって、地域の融和につながるなど、さまざまな事例が報告されています。

このような事例は、写真付きで「使用前・使用後」のように紹介されているため、大変説得力があります。横浜市でも、こうした海外事例を参考にしてみることも有効だと思います。

しかし、一方で負の側面もあります。最近、愛護会や町内会から、「作業している人が外国人ばかりで、ヤマユリなどの大切な植物が切られてしまった」といったような声をよく聞きます。実際に外国人の方がヤマユリなどを切ったかどうかは分かりませんが、その方たちが作業した後に大事にしていたヤマユリが無くなっていた、という噂が流れています。

例えば、先日、私も外国人女性が伐採チームで作業をしているのを見て、「この方はどこから来たのだろう」と思いました。その方が植物学の専門家である可能性もありますが、横浜の植生を理解しない今まで作業をすると、誤解やトラブルの原因になります。

そのため、市は作業を発注する段階で、実際の作業者に対しても、「みどりアップ計画とは何か」、「横浜の自然をどう守るか」、「ヤマユリは切らないでほしい」といった基本的な情報を共有することが重要です。特に、外国人労働者に対する説明不足は市民からの誤解を受けやすく、また、トラブルの素にもなります。

「外国人にやらせているから問題があるのだろう」といった声が市民から生まれるのを防ぐためにも、市役所には何らかの対処をお願いします。海外へのアピールを検討する際には、それらの点についても考慮くださるとありがたいです。

また、先日、私は北原委員と一緒に苗木配布の取材を行いました。北原委員は記事を執筆し、私は自分の持つ英語ブログにその様子を掲載しましたが、1カ月間で非常に多くのアクセスがありました。海外の方が横浜の苗木配布に強い関心があることに驚きました。こうした情報発信をもっと積極的にしていくべきだと思います。

(池邊座長) ありがとうございました。最後の2点は大変重要な視点です。外国人への発注については、私も酷暑の中で水やりなどの作業を担う外国人労働者の話を聞いています。造園会社が対応しきれず、パートタイマー的に雇用しているケースもあるようです。そうした現場に対する配慮は、今後ますます、重要ななると思います。

それでは、事務局からご回答をお願いします。

(事務局) ありがとうございました。日産スタジアムでの広報、また、緑の機能を市民の皆さんにどのように伝えるかという点につ

いてご意見を承りました。

また、維持管理の面について申し上げると、みどりアップ計画が始まる以前は、生物多様性に配慮した草刈りや樹林地の管理はほとんど行われていませんでした。みどりアップ計画の開始以降、世の中の意識も変わり、生物多様性等に配慮した、きめ細やかな手入れへと少しづつ移行してきたとは考えています。しかし、まだ十分とは言えないため、今後、より充実していきたいと思います。

ご指摘のあった作業者の問題については、誰が作業しているかというよりも、市がどのように発注し、受注業者とどのように情報共有するかが重要です。作業する方に対して、みどりアップ計画の趣旨や作業において配慮すべき点などを伝えることを徹底する流れを作っていくように取り組んでいきます。

(池邊座長) ありがとうございました。

それでは、小金井委員、お願ひします。

(小金井委員) 私は農協から参加しています。もし、横浜みどりアップ計画が実施されていなければ、緑も農地もこれほど維持できていなかつたのではないかと感じています。管理された環境の中で、市民が緑を楽しみ、価値を感じるには、やはり予算を投入して整備する必要があります。

これまで、私自身は、「農家にこの税金をどう活用してもらうか」、「農業を守ることが大切だ」といった農業目線で考えていました。しかし、今日の会議で他の委員から、自治体目線や市民目線など、さまざまな立場からのご意見を伺い、緑の維持や農体験についての多角的な視点があることをあらためて認識しました。

これだけ多くの意見が出るということは、皆さんのがこの取組を評価し、「もっとできる」と考えている証だと思います。都市農業では、緑が失われつつあり、また、農業をやめる方が増えている現状があります。だからこそ、こうした議論を重ねることが、農業の継続につながるのではないかと感じています。

私も、農家の方々には、「農業を守る」という目線だけでなく、本日お聴きした意見を持ち帰り、励ましや協力への呼び掛けにつなげていきたいと思っています。

広報については、なかなか一つの目線では伝わりにくいと考えます。農家には農家目線、自治会には自治会目線、行政には行政目線、市民には市民目線が必要です。「みどり税がなければ、横浜の大切な緑を守れないこと」を、さまざまな目線から紹介していけば、理解が深まるのではないかと思います。

みどりアップ計画とは別に、横浜市には農業を支える行政部門もあり、農業についてはそうした部門がしっかりと守っています。ぜひ、その点もご理解いただければと思います。

また、「農を感じる」体験については、食糧自給率を維持するための「農業をなりわいとするゾーン」と、農を感じてもらえる「体験ゾーン」とをきちんと区分すべきだと、私は考えています。農業を起こして食糧生産する場所、市民が「農を感じる」場所とを整理することによって、市民の理解がより一層進むと思います。

昔、農家の方々は「まき取り山」を持っていましたが、今ではまきを使わなくなり、管理されていない山が増えています。そうした山は緑の保全どころか、急速に緑が死んでいきます。みどりアップ計画を通じて、さまざまな人の力を借りながらこうした場所を守っていくことは、保全にしっかりとつながっていると思います。こうした点もPRがもっとできるのではないかと思います。うまく言えないのですが、しっかりとつながりを意識して取組を進めてほしいと考えています。

本当に良い議論ができていると思います。今後も、みどりアップ計画を継続し、緑を守るという目的をしっかりと保持しつつ、手法についてはそれぞれの立場からで意見を出し合えばよいのではないかと思いました。

(池邊座長) ありがとうございました。

「横浜」と聞いて、農業をイメージする人はまだ少ないかもしれません、実は、横浜市には農地が多く、みどりアップ計画によって守られてきたという事実があります。小金井委員がおっしゃったように、その点をもっと積極的にアピールしてよいのではないかと、私も思います。

以前、みどりアップ計画の視察に参加した際、農業関連の視察が非常に充実していて、農政部の女性職員の方が3人ほど、熱心に案内してくださいました。その姿がとても生き生きとしていて、私も大変触発されました。

農政の女性職員が農業の現場で活躍している姿を非常に素晴らしいと感じています。こうした方々の活動をミニドキュメンタリーのような形で紹介すれば、「アグリガール」といった若い世代や、横浜の農業に参加したいと考える市民が増えるのではないかでしょうか。

また、横浜にこれほど農地があることを、新しく転入されたマンション住まいの方々はほとんどご存じないと思われます。こうした方々に、横浜の農地の価値をぜひ、体感してもらいたいと思います。

そして、栽培収穫体験ファームや環境学習農園など、一般的な市民農園とは異なる取組もとても重要です。さらに、農園付公園にトイレ等があることも、他都市では見られない特徴です。予算の確保が難しい中でも、みどりアップ計画によってこうした設備が整えられることで、若い女性や乳幼児・子ども連れの方々も農体験に参加しやすくなるとよいと思います。

事務局から何かご回答はありますか。

(事務局) ありがとうございます。私もこれまで、横浜の農業について数え切れないほど、プレゼンテーションや説明を行ってきました。パワー・ポイントでも、「横浜といえば、みなとみらいや中華街というイメージがありますが、実は農業も盛んな都市です」という枕詞を必ず使っていますが、最近でも、そのイメージは変わっていない状況です。

とはいっても、知っている人は知っているという中で、私たちも一生懸命、PRをしていますが、認知度が高いかというと、まだ十分とは言えません。

農地や農業の状況、そして、他都市との比較においても、横

浜の農政施策は非常に先進的であり、他都市の方からは、「そこまでやっているのですか」とよく言われます。政令指定都市は全国に20市ありますが、そのほとんどでは経済局や産業局が農業施策を実施し、経済的な取組の一環として位置付けられています。

しかし、横浜市では、農家の経営を支援する取組と、みどりアップ計画の中の市民が身近に農を感じる取組という二つの柱によって施策を展開しています。これは横浜市だけの特徴ですが、まだ不十分な点やさまざまな課題があります。

小金井委員からの「いろいろな目線」というお話、また、菊池委員からは「市民目線が不足している」というご指摘を頂戴しました。私たち行政の目線、地域の目線など、さまざまな目線も含めて、横浜の農の資源、あるいは、地域資源としての価値を捉え直すことが重要です。

そして、何よりも、横浜市には昔から、大きな特徴とも言える「市民力」があります。農業の現場では高齢化が進んでいますが、一方で、食や農に関係する市民の熱意や意識は非常に高いものがあります。今後のみどりアップ計画、そして、農業振興についても、そうした市民の力を生かしながら、しっかりと取組を進めていきたいと思います。ありがとうございました。

(池邊座長) ありがとうございました。

それでは、河原委員、お願いします。

(河原委員) 貴重なお話をありがとうございます。先日、7月27日に大竹委員、金井委員と一緒に、「寺家ふるさと村」で開催された「わさびとレヂヲの夏休み生き物実験ラボ」に参加しました。その際、講師の方や参加された親子の皆さん、「この取組がみどりアップ計画の一環である」ということを全く理解しておられませんでした。市役所の方が子どもたちに「よこはまこどもみどりアップ」リーフレットを配布し、「今回は横浜市の取材です」と説明すると、ようやく、参加者の方々はみどりアップ計画とイベントとの関係を理解してくださいました。

また、広報・見える化部会として講師の方を取材したときに、「今日のイベントは横浜のみどり税を使った事業の取組の一つである」といった話をすると、講師の方からは、「横浜市はそんなすてきなことをやっているのですね」と言われました。

せっかく税金を使ってイベントを実施しているのに、市職員がいないとリーフレットも配布されず、講師にも趣旨が伝わっていないということでは本末転倒ではないかと思います。親子が参加できるような取組では必ず、「よこはまこどもみどりアップ」リーフレットを配布し、また、講師に対しては、「こういう事業なので、こういう視点で講義をお願いします」と伝えるべきです。そういった意識を持って取組を進めていかないと、お金を出している意味があまりないのではないかと思います。

また、さまざまなイベント等に横浜市民以外の方が参加されることもあります。「来ないでください」とまでは言いませんが、できれば、横浜市内の方がもっと参加できるよう、認知やアピールの工夫が必要だと思います。

	<p>(池邊座長) ありがとうございます。貴重なご意見だと思います。 事務局、お答えをお願いいたします。</p> <p>(事務局) ありがとうございました。 みどりアップ計画、みどり税による事業を実施する際は、「これはみどりアップ計画の事業としてやっています」、「みどり税を財源として使っています」ということを必ずお伝えするというルールで取り組んではおります。 しかし、今、ご指摘を頂戴したように、十分に徹底できていないところがあるようです。あらためて、そのルール順守を徹底し、市民の皆さまにより効果的にアピールできるように、引き続き取り組んでいきます。ありがとうございました。</p> <p>(池邊座長) ありがとうございます。 それでは、野路委員、お願いします。</p> <p>(野路委員) 河原委員からイベント等でのみどりアップ計画の周知のお話がありましたが、「恵みの里」事業では必ず、農政推進課の職員がいらっしゃって、みどりアップ計画について周知しています。先日もブルーベリーを摘み取り体験を行い、その後、私たちが講師となってジャム作りを実施しました。その際も、最後に市職員が、「これはみどりアップ計画の一環です」ということを説明してくださいました。少ししつこいかも知れないと思うほど、それについては徹底しています。 玉ねぎや落花生の収穫体験など、JAの関わる取組においては、2~3人の市職員の方が参加され、田んぼにも入ってくださっています。 そのため、何度か参加しているお子さんの中には、「これはみどりアップ計画でやっているんだよ」と自然に言えるようになっている子もいます。私自身の立場上もありますが、なるべくこうした説明を促すようにしています。 菊池委員がおっしゃっていた、農園のある地域とない地域の差についてですが、私の立場から見ると、市街化調整区域でない場所には農園が少ない傾向があります。統計的にも、貸し農園を提供する方が減ってきており、以前は1カ月に3件ほどの新規案件がありましたが、現在は非常に少ないです。 農園のある地域では区画が狭く、非常に高額で貸し出す方もあります。駐車場やトイレの問題など、周辺に迷惑が掛かるケースもあります。横浜市としても対応が難しい部分があるかと思いますが、私たちは貸し手側に立って、できるだけ貸し出しが進むように働き掛けています。 ちなみに、私は70区画以上を貸し出していますが、農地が多い地域では借り手がなかなか見つからず、農地が少ない地域では順番待ちが発生しています。今後、「コロナで外出が難しいから貸し農園を利用したい」、「子どもと一緒に農体験をしたい」といったニーズが出てくると思いますので、今後もこの取組は継続していきたいと考えています。 また、市役所の方には、みどりアップ計画の説明を行う場を設けますので、できるだけ、その趣旨を伝える言を添えてくださると、みどりアップ計画への理解が深まると思います。駐車</p>
--	--

場の緩和についても、私どもの委員会として要望していきたいと思います。

それ以外の点については、皆さんにおっしゃった内容とお同じような考えです。よろしくお願ひします。

(池邊座長) ありがとうございます。事務局を支援するようなご意見をいただきました。

それでは、先に岩本委員にお話しいただき、その後、事務局からの回答をお願いしたいと思います。

(岩本委員) 今回第 44 回会議ということで、これまで同様にさまざま意見交換が行われましたが、まず、いただいたこの冊子について申し上げたいと思います。

以前から、「もう少し色を濃くしたほうがいい」、「見やすくなかったほうがいい」といった意見がありました。今回の冊子は非常に見やすく、内容も素晴らしい、度肝を抜かれるほどでした。

また、この冊子にはこれまで出された意見が全て網羅されていると考えています。

私たちは「市民の森愛護会」として活動していますが、幼稚園児から高齢者まで、情操教育の面でも非常に良い影響があると感じています。昨年も暑かったのですが、今年はさらに暑く、世界的な地球温暖化の影響を実感しています。横浜市は緑の多い街で、私たちも森の中で活動をしていると、空気の良さを感じ、非常に恵まれた環境に住んでいると実感します。

みどりアップ計画の中で花が植えられ、街路樹が整備されて、街が大変きれいになってきました。今後もこうした取組を進めてほしいと思います。

みどりアップ計画の認知度については、前回の会議でも、「もっとみどりアップ計画の看板を出したほうがいい」という意見がありました。今回も同様の意見を述べさせていただきますが、あまり看板を出し過ぎることに対しての市役所側のご判断もあるかと思います。各地域の集まりなどでもっと PR してもよいのではないかと、私は思います。

実際に森で活動していると、「この活動はずっと続けてほしい」、「みどり税はありがたい」といった声を多く聞きます。現実的に、みどり税によってみどりアップ計画が推進されていることは、地球温暖化防止にも寄与していると感じています。

農の問題、森の問題は、人間が生きていく上で欠かせないものです。従って、市役所の方々は自信を持ってみどりアップ計画を推進してください。私たちも一市民として応援していきたいと思いますので、今後とも、どうぞよろしくお願ひします。

(池邊座長) ありがとうございました。応援のご意見として承ります。

最後に、私から一つ提案をいたします。取組 25 の「保育園・幼稚園・小中学校の緑の創出」についてですが、5 カ年 100 カ所の目標に対して 28 カ所の実績で、現在の進捗率は 28% となっています。

この酷暑の中、私自身も区立小学校の夏休みの水まき当番を経験したことがあります。炎天下で芝生に水をまくことは非

常に過酷で、保護者の負担も大きく、「こんなことをやるのなら、芝生化しないほうがよい」という意見にもつながってしまうところです。しかし、水やりをしなければ芝生は枯れてしまいます。

そこで提案したいのは、横浜市が進めているグリーンインフラの取組と連動し、保育園・幼稚園、小中学校などにスプリンクラーやミスト装置を設置することです。これにより、酷暑時の水やり負担を軽減し、子どもたちも涼しさを体感できる環境が整います。恐らく、そういった仕組みがないと、校庭の芝生化はこれ以上進まないのでないかと考えます。また、この3年間で枯れてしまった芝生は非常に多いのではないかと、私は思っています。

私が1970年代にアメリカ西海岸を訪れた際、芝生が美しく保たれていたのは、スプリンクラーが標準装備されていたからです。日本では、これまで雨に頼ってきましたが、今後は農地、公園、校庭などにも冠水装置が必要になると考えます。グリーンインフラの先進事例として、横浜市が園庭緑化にスプリンクラーやミスト装置を導入すれば、市民の理解も得られ、「それならやってみよう」と思う学校も増えるのではないかでしょうか。工事期間中は園庭、校庭が使えないという課題もありますが、ぜひ、ご検討をお願いします。

(飛田委員) 今の座長のご意見に関連して申し上げます。

グリーンインフラや教育施設の緑の創出に関連して、ビオトープを推進しているということですので、それについて申し上げます。私は、神奈川県の「かながわ水源環境保全・再生施策大綱に基づく水環境モニタリング」のお手伝いをしています。その中で、生物学の専門家である大学の先生方から教育施設でのビオドープ普及事業がビオトープ建設達成目標の数字ばかりを追いがちで、学校でビオトープを作った際に、他県から生物を持ち込み、ビオトープに放してしまったという事例が多発している可能性がある。その結果、鶴見川や大岡川などに国内外来種が逃げ出してしまい、生物多様性保全に逆行するDNAレベルでの外来種汚染発生への懸念を伺ったことがあります。

校長先生をはじめ、先生方には、ビオトープを作る前に、生物多様性や横浜の自然について学んでもらいたいと思います。以上、現場からの声としてお伝えいたします。よろしくお願いします。

(事務局) 数々の貴重なご意見をありがとうございました。私たちが把握できていない部分もあり、大変参考になりました。

池邊座長からの暑さ対策や芝生への水やりのためのスプリンクラー・ミスト装置導入についても、私たちはみどりアップ計画の事業を進める際には、必ず、教職員との意見交換を行っておりますので、予算面も含めて、今後、検討してまいります。ありがとうございます。

(池邊座長) それでは、内海副座長、お願いします。

(内海副座長) 時間も押していますので、簡単に一つだけ申し上げます。

13ページの「特定農業施設の保全契約」に関してですが、農業集落が多く立地している市街化調整区域が横浜市内には多数あります。私の経験した所では、青葉区のある地区で市街化区域への編入に反対する動きがありました。その理由は、固定資産税が急激に高くなるためです。また、市街化区域に編入されたからといって、まちづくりが進むわけでもなく、整備の見込みもない地域でした。そういう所が市内には多数あります。

農家住宅は500～1000平米と広いのですが、都市計画の基礎調査では住宅としてカウントされます。そして、都市的土地区画整理事業が90%を超えると、市街化区域に編入されてしまいます。しかし、農業生産のためには農機具置き場や収穫物の洗浄・乾燥スペース、農園などが含まれるため、広い敷地が必要です。戸数は少なくとも、宅地である以上、都市的土地区画整理事業とみなされます。そうなると、農業の継続が困難になります。これは非常に大きな問題です。

「特定農業用施設の保全契約」により、固定資産税や都市計画税が10年間軽減されて農業を継続できますが、市街化区域に編入されると、その恩恵も受けられなくなります。農家住宅の生産活動を支える部分について、宅地としてカウントしないような制度設計が必要です。そうしなければ、農家事態が維持できなくなる危機的状況にあると、私は考えています。

昨年度までは、農地の転用による資材置き場団地化についての議論をしてきましたが、農家住宅そのものが危うい状況にあることを強く危惧しています。この件は都市計画との調整が必要となります。関連施策として、ぜひ、検討してほしいと思い、一言申し上げました。

(池邊座長) ありがとうございます。関連政策に関するご指摘でした。私は都市計画審議会にも参加していますので、お預かりして、そこで発言したいと思います。

議題2「横浜みどりアップ計画市民推進会議2024年度報告書（案）について」、事務局からお願ひします。

#### (事務局説明)

(池邊座長) ありがとうございました。

広報・見える化部会からの新たな情報提供の手段として、「ソーシャルメディア『note』」をご提案いただきました。これは最近、非常に注目されている媒体であり、「note」は多様なコンテンツを掲載できるため、今後の活用が大いに期待できると感じています。

また、皆さまから多くのコメントやご指摘をいただいております。これらは実績報告書の巻末資料に掲載される予定です。ご執筆くださった委員の皆さまには、あらためて感謝申し上げます。私も、頂戴したご意見を踏まえ、あいさつ文を少し加筆したいと思っています。

それでは、この報告書についてご意見があれば、お願ひします。竹内委員、お願ひします。

	<p>(竹内委員) 簡潔に3点、意見を申し上げます。</p> <p>1点目は、横浜市が大変素晴らしい政策を数多く展開されていることに対して、私たち17名の委員も、みどりアップ計画のアンバサダーのような立場で積極的にPRをしていきたいと思います。</p> <p>2点目は、池邊座長がお話しされた温暖化対策についてです。今後、植栽する樹種についても、高温や乾燥に強い種類やグラス類などの導入を検討する必要があると感じています。また、維持管理に関わる作業員の安全確保も重要です。草刈りロボットの活用や作業時間の見直しなど、働き方そのものを先進的に考えていくことが求められているのではないかと思っています。</p> <p>3点目は、5カ年の事業費の使途についてです。今回の資料では、初年度に各事業でどれくらいの予算が使われたかが示されていません。可能であれば、1年目に予算配分を見直し、計画全体の中で重点を置くべき事業、多くの予算を充てるべき事業について、内部で検討してもらいたいと思います。</p> <p>私が特に気になったのは、民有地の樹林地管理に対する助成です。大変力を入れて取り組まれているにもかかわらず、助成の応募が目標に達していないようです。応募の書類記入の難しさなども原因かもしれません、実際にはこの分野にこそ、予算を重点的に配分すべきだと考えています。ぜひ、予算配分についての見直しもご検討ください。以上です。</p> <p>(池邊座長) ありがとうございます。</p> <p>北原委員、続いて菊池委員、お願いします。</p> <p>(北原委員) 広報・見える化部会でご提案した「note」が、こんなにも早く実現されたことを大変うれしく思っています。迅速なご対応に感謝いたします。</p> <p>本日の前半でも議論の中でも、みどりアップ計画の認知度に関する課題は、ほぼ全ての委員からご指摘があったかと思います。私自身も、SNSの運用などを通じて情報発信にかかわっていますが、横浜市役所の各部局、各区役所が熱心に取り組まれている一方で、「横浜市全体のブランドとしての緑」が十分に位置付けられていないのではないかと感じています。</p> <p>例えば、「横浜市移住サイト」や「子育て応援マガジン」などでは、緑の魅力や子育て環境としての良さが個別の記事で紹介されていますが、「横浜市全体のブランディングとしての緑」が体系的にPRされているとは言い難い状況です。</p> <p>もちろん、みどり環境局だけで判断できることではないことは承知していますが、近年の気候変動の影響などもあり、グリーンインフラの重要性は、市民も日々実感していると思います。</p> <p>また、みどり税の認知の仕方についても、例えば使う言葉が「みどり税をご負担いただいています」というように、「負担」という言葉が繰り返されることによって、制度そのものがネガティブに受け取られてしまう可能性があります。</p> <p>それよりも、「私たちはみどり税を通じて横浜の緑を守ることに参画しています」といった表現にすれば、市民が主体的に</p>
--	--

	<p>関わっているというイメージが伝わりやすくなると思います。このように、「緑を守ることについてのブランド化」を進め、横浜市民のプライドとなっていくことが、今後、ますます重要なのではないかと感じています。</p>
(池邊座長)	<p>ありがとうございます。</p> <p>「負担から参加へ」、あるいは、「貢献」という言葉に置き換えることによって、市民の受け止め方もおおきく変わると思います。これは大変大事な点だと思います。委員、そして、市役所の皆さんも、今後は言葉の使い方をよりポジティブに転換してくださるようにお願いします。</p> <p>それでは、菊池委員、お願ひします。</p>
(菊池委員)	<p>質問です。柱3「市民が実感できる緑や花の創出・育成」が21ページにありますが、これは「地域緑のまちづくり」とは別のものですか。「地域緑のまちづくり」の事例として、六浦東、野庭団地や柏尾町が挙げられていますが、それらは「市民が実感できる緑や花の創出・育成」には該当しないのですか。「地域緑のまちづくり」についての記載が少ないと感じました。</p>
(事務局)	23ページに記載されています。
(菊池委員)	「地域緑のまちづくり」は「ガーデンシティ横浜の更なる推進」という枠組みの中にあるのですか。
(事務局)	はい。その中の事業②(1)が「地域緑のまちづくり」です。
(菊池委員)	つまり、施策1と施策2とに分けられていて、「地域緑のまちづくり」は「ガーデンシティ横浜の更なる推進」の中にもともと入っていたということですか。
	部会で、「地域緑のまちづくり」の議論はしましたが、「ガーデンシティ横浜の更なる推進」の議論はなかったのです。
(事務局)	「計画の体系」として、「地域緑のまちづくり」を、柱3の施策2の中の事業②として整理をしております。
(菊池委員)	なぜ、前回の部会で「ガーデンシティ横浜の更なる推進」についての議論をしなかったのですか。
(事務局)	「ガーデンシティ横浜の更なる推進」という施策の名称があり、計画の体系としては、その施策に幾つかの事業が含まれています。前回の部会では各事業についてのご議論をお願いしたため、「ガーデンシティ」という施策名が出てこなかったのではないかと思います。
(菊池委員)	私は一度も聞いたことがありません。
(池邊座長)	従来からの施策名となっていますので、そこを変えるとなると、大きな問題となるかもしれません。

	<p>(菊池委員) いや、変えろと言っているわけではないのです。部会で「ガーデンシティ横浜の更なる推進」についての議論がなかったため、「地域緑のまちづくり」との関係がよく分からなかったのです。</p> <p>(池邊座長) 事務局から補足をお願いできますか。</p> <p>(事務局) 部会では柱3についてご議論いただいたかと思います。計画の体系として、柱3には施策1と施策2があります。</p> <p>(菊池委員) それは理解しています。 部会では、「地域みどりのまちづくり」について、今の公募の方法はどうなのがと申し上げたのです。これは「地域緑のまちづくり」の話をしていたのであって、「ガーデンシティの更なる推進」の中の話であるという説明はされていませんでした。</p> <p>(事務局) 私たちの説明が不十分だったかもしれません。もともと、「地域緑のまちづくり」の事業は、施策2の「ガーデンシティ横浜の更なる推進」に含まれるという位置付けです。</p> <p>(菊池委員) それも承知しています。私が申し上げたのは、あの部会は何だったのかという感想です。</p> <p>(事務局) 私たちの説明の仕方が不十分だったとしたら申し訳ありません。みどりアップ計画の体系は、先ほど申し上げたとおりです。</p> <p>(菊池委員) こうした発言をした理由は、町内会では「地域緑のまちづくり」の在り方が重要であるからです。従って、「地域緑のまちづくり」事業はもっと大きく取り扱われるべきではないかと以前から思っていました。 「ガーデンシティ横浜の更なる推進」の一部として位置付けられていることは理解しましたが、市民目線からすると、少し物足りない印象を受けます。 私は、枠組みの見直しを求めているわけではありませんが、もう少し丁寧な扱いが必要ではないかと感じています。</p> <p>(事務局) 「地域緑のまちづくり」の実績の表現方法について、ボリューム感を含めて再検討する必要があるかもしれません。今回の市民推進会議の報告書では、詳細な実績については市が作成する『実績報告書』にゆだねる方針で整理しています。 例えば、『市民推進会議報告書』の23ページ右上に、「実績報告書関連ページ」という記載があり、そちらで詳細を確認できる構成となっています。その辺の説明が不十分だった点についてお詫びいたします。</p> <p>(菊池委員) 「地域緑」というフレーズを使って、これまで多くの意見を述べてきたつもりだったため、少し寂しい印象を受けたという感想です。</p> <p>(池邊座長) ありがとうございます。</p>
--	--

「地域緑のまちづくり」は、私が以前、緑の部会長を務めていた際にも、応募書類作成負担が大きいためか、応募も少なく、なかなか進まない状況でした。

しかし、現在は 73 地区に広がり、成果も出てきています。ようやく花開いた段階だと思いますので、今後の継続性についても、次回以降の部会で議論していきたいと思います。

施策の枠組み変更などは今の段階では難しいと思います。

(菊池委員) 私は、枠組みの変更を求めているわけではありません。「部会の進め方がおかしかったですよね」、「そうですね」で終われば、それで十分です。

(池邊座長) 承知しました。

(菊池委員) 駅前や地域のメインストリートの緑化は、町内会にとって大変重要な課題です。それが埋没してしまった印象があります。そうした枠組みについて私が知らなかつたこともありますが、理解しました。

(池邊座長) 新しい委員構成による最初の部会で、昨年度の実績についての議論となってしまい、委員の皆さまには若干、とまどいもあったかと思います。次回の部会以降は、今後の取組に重点を置いた議論になりますので、菊池委員のご意見を部会でご発言ください。そして、そのご意見を本会にも届けてほしいと考えます。

(菊池委員) 承知しました。それで結構です。

(池邊座長) ありがとうございます。

それでは、議案 2 についてはこれで締めたいと思います。事務局より、議題 3 「その他」について、説明をお願いします。

(事務局説明)

(池邊座長) 本日は、皆さまから多くのご意見いただきました。頂戴したご意見は報告書に反映してまいりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。本日はありがとうございました。  
閉会のごあいさつを相場部長、お願いいたします。

(事務局) 時間も過ぎておりますので、手短にごあいさついたします。本日も、いつも以上に熱心なご議論、そして、厳しいご意見を多数いただき、誠にありがとうございました。部会や会議の進め方に不十分な点があったとすれば、申し訳ありません。今後は事業内容だけでなく、会議運営についても改善してまいります。

本日いただいた提言は、秋に発行予定の『市民推進会議報告書』に反映してまいります。みどりアップ計画は現在、2 年目が進行中ですので、引き続き、取り組んでまいります。本日は誠にありがとうございました。

	(一同) ありがとうございました。 (事務局) 以上で、市民推進会議を終了いたします。本日はありがとうございました。
資料 ・ 特記事項	次第 資料1 横浜みどりアップ計画市民推進会議2024年度報告書（案）